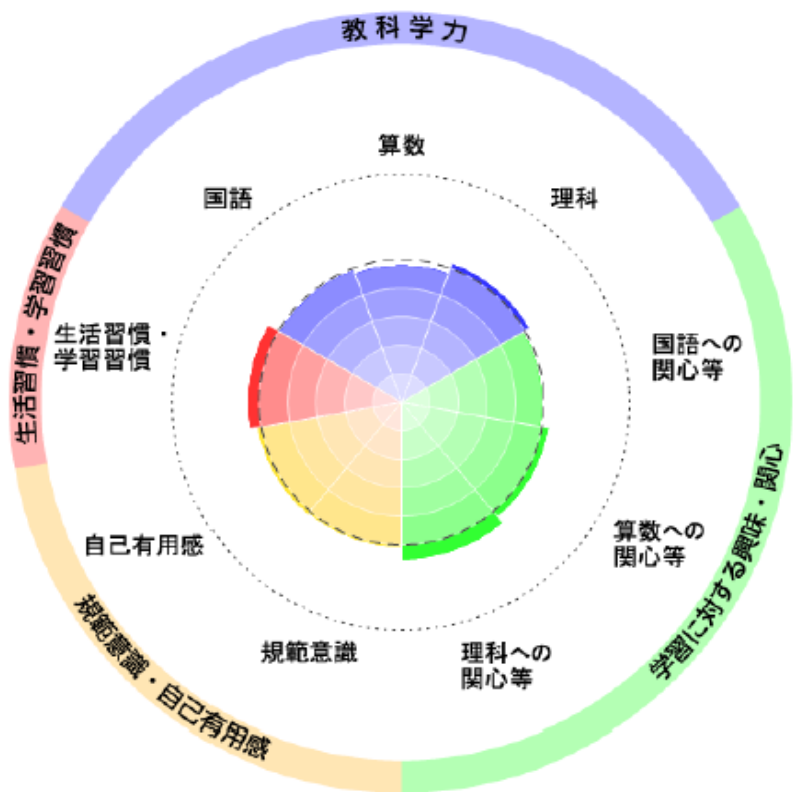


令和4年度 全国学力・学習状況調査における小学校の結果について【実施日:令和4年4月19日】

筑西市内小学校の結果についてお知らせします。なお、この調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

1 令和4年度全国学力・学習状況調査における

本市のレーダーチャート



対 象:市内小学校第6学年
 調査人数:20校 746人
 調査内容:国語・算数・理科・質問紙

2 教科に関する調査(レーダーチャートの「国語、算数」) ○:成果、●:課題

【国語】

- 立場・意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること
- 今後の取組

【算数】

- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること
- 百分率で表された割合を分数で表すこと
- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること
- 示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること
- 今後の取組
- 描写を基に登場人物相互関係を捉えること
- 漢字を文の中で正しく使うこと
- ・物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるようにする指導の充実
- ・同じ部分や同じ読み方をする漢字を、場面に応じて注意して使う指導の充実
- ・問題場面の数量の関係を、表を用いて表の各欄と合計欄の関係に着目し、ある項目に当たる数の求め方を式に表して計算したり、表した式を比べて式のよさを見いだしたりする学習活動の充実
- ・日常の具体的な場面に対応させるとともに、生活経験を想起させながら、割合について理解できるようにする学習活動の充実
- 器具についての理解
- 自然の事物・現象についての理解
- 今後の取組
- 実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつこと
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述すること
- ・観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定した学習活動の充実
- ・問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定した学習活動の充実

3 児童質問紙調査(レーダーチャートの「興味・関心等」～「生活習慣・学習習慣」)○:成果、●:課題

- 「学校に行くのが楽しい」、「将来の夢や目標をもっている」、「人が困っているときは、進んで助ける」と答えた児童が全国より多い。
- 「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童が、全国より多い。また、肯定的な回答をしている児童の学力も高い傾向にある。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と答えた児童が全国より低い。
- 携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について、「家の人との約束はない」、「約束を守っていない」と答えた児童が全児童の昨年に引き続き、約一割程度いる。
- 今後の取組等
- ・国語科を要として言語能力の育成に計画的に努めます。また、国語科以外でも教科横断的な視点から、相手意識・目的意識を明確にした言語活動を通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する力の育成を目指します。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、児童主体の授業を目指します。
- ・携帯電話・スマートフォン・コンピュータの情報モラルについて、学校でも引き続き指導していきます。各家庭では、使い方についての約束の再確認及び約束がない家庭は、お子さんと話し合ってください。また、学校から配付されている「タブレット使用ルール」と情報モラルについても随時、確認をお願いします。
- ・基本的生活習慣の育成を目指し、「早寝、早起き、朝ご飯」へのご協力を今後も引き続きよろしくお願いします。